

24

令和6年8月

岩手大学教職大学院



NEWS Letter

岩手大学大学院 教育学研究科 教職実践専攻

「教育実践研究の成果」を更新して公開中
教職大学院ホームページにてご覧いただけます!<https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>岩手大学大学院教育学研究科研究年報
オンラインISSN 2432-924X

- 小野靖子・鈴木久米男・佐藤進 (2024) 「いわての復興教育」の再考—人材育成及び防災の「警鐘・継承」をめざして—
- 芦澤信吾・宮川洋一 (2024) 小学校社会科における1人1台端末を活用した事前学習の教育効果
他12編掲載、教育学研究科研究年報 第8巻



問合先: 岩手大学教育学部

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号 TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600
E-mail edujim@iwate-u.ac.jp URL <https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

前期専門実習を終えて

授業力開発プログラム
現職 M2 橋本 淳史

指導主事研修への参加、総合教育センター、県教育委員会事務局、盛岡教育事務所における教育行政業務について学修機会をいただきました。

子ども達や学校現場に寄り添うことを中心とし、国や県の施策(新)の推進と、地域や学校への最適なアプローチ(真)を問い続け、全ての人のWell-beingを見据えた教育行政を推進する一端を、体験を通し学びを深めることができました。

授業力開発プログラム
学卒 M2 川島 真子

私は、自らの目標として「子どもの考えをつなぐ」、「子どもの思考の流れに沿った(発問等の)タイミング」を意識して授業力開発実習を行い、多くの成果や課題を得ました。

授業構想や授業後の振り返りでは、現職院生や教授の先生に加え、連携協力校の先生方からもご助言を頂けることが、とても力になっていると感じています。

教育実践研究・中間発表会

中間発表会に向けて

学校マネジメントプログラム
現職 M2 高橋 恵子

私は「算数科における主体的な学びを促す授業づくりの研究」というテーマで研究を進め、6月に授業実践を行いました。その実践とこれまで大学院で学んできた理論とを往還させながら、研究を進めています。中間発表会では多くのご指導・ご意見を頂き、さらに教育現場に還元できる研究となるよう研鑽を積んでいきたいと思ひます。

中間発表会に向けて

授業力開発プログラム
学卒 M2 中村 偉織

私は「特別支援学校の作業学習における補助具の効果」というテーマを設定しました。自身の実践力を高めたいという思いで教育実践研究に取り組んでいます。実践を自己完結させるのではなく、多くの人に知っていただき、貴重な意見をもらうことで、今後の教育実践研究をさらに深めていきたいと思ひます。

教育学研究科教員
メッセージ

「共に学び考える」

教育学研究科長 柴垣 登

本学教職大学院では、高い専門性と実践力を身に付けた高度専門職業人としての教員を養成するため、専攻共通科目を中心とする学修カリキュラムのほか、「専門実習」、「教育実践リフレクション」、「教育実践研究」をカリキュラムに位置づけ、教育現場の課題解決に資する実践的なフィールドでの教育・研究を行っています。

このような多様な学びができることが教職大学院の大きな特色ですが、最も大きな特色は、現職院生、学卒院生の垣根を越えて「共に学び考える」ことができる環境があることです。院生一人一人が自らの専門性を高めるために「自分自身」でしっかり学ぶことを基盤に、院生同士が「共に学び考える」ことを通して、全体としての専門性と実践力を高めていくことが可能なのです。近年の多様化、複雑化する教育課題に学校がチームで対応することが求められています。そのための学びが教職大学院にはあります。

授業力開発プログラム
現職 M1 千葉 絵里香

授業力開発実習を通しての気づき

配属校では、主に4年生と特別支援学級に関わらせていただきました。この実習を通して、担任ではない俯瞰的な視点での授業実践や、授業参観を行うことができました。受け入れてくださる配属校の先生方とのコミュニケーションを大切に、授業づくりや復興教育、生徒指導など今の自分のできることは何かを考えながら、今後の実習に臨んでいきたいと思ひます。

授業力開発プログラム
学卒 M1 高橋 舞

4月から毎週木曜日に連携協力校での実習を行っています。先生方の授業をたくさん拝見し、子どもたちの学びをじっくり見とることで、自分自身がどのように授業づくりを行っていけばよいのか、子どもの反応と併せて考えることができました。そして、子どもの疑問・気付き・考え・経験などを十分に授業の中に盛り込むことで、子どもたちの学びがより深まっていくのだということに気づきました。

「ニュースレター」の最新号とバックナンバーは、こちらから
<https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>「岩手大学大学院教育学研究科研究年報」は、こちらから
<https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/shoukai-2/seika>「岩手大学教育学部プロジェクト推進支援事業 教育実践研究論文集」は、こちらから
<https://www.edu.iwate-u.ac.jp/kenkyuu-2/gp/>「教育実践・学校安全学研究開発センター」は、こちらから
<https://www.edu.iwate-u.ac.jp/huzoku/jsw/>